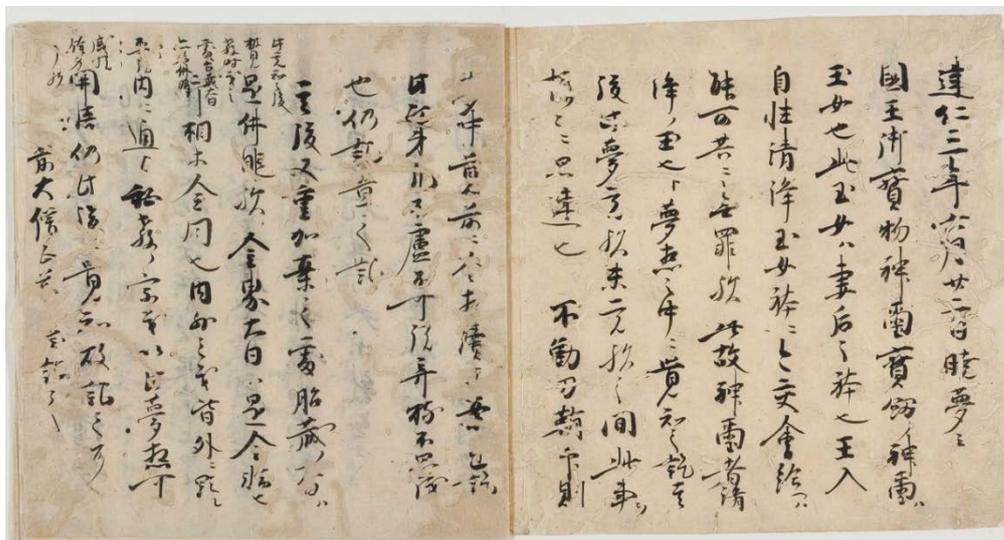


慈鎮和尚（慈円、1155～1225）の見た夢とそれについての考察を記したもの。全体は三つの部分からなり、建仁3年（1203）6月22日の夢想の内容、翌年正月1日に記した神璽が清浄な玉であることの記述、問答体による教義的な解釈からなる。承元3年（1209）に清書しなおした旨の奥書がある。一部分はすでに失われている。

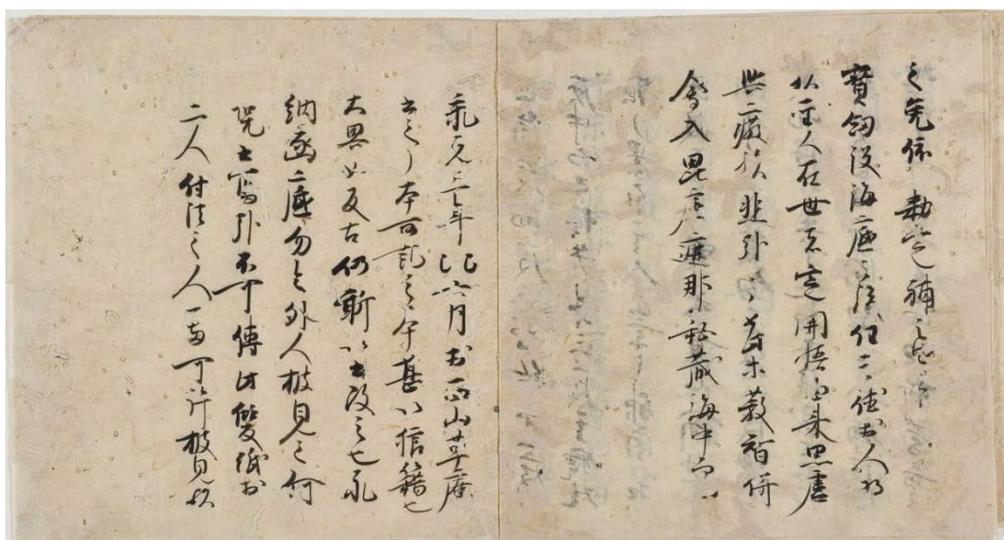
慈円の著した歴史書『愚管抄』を考察する上で重要視され、中世における日本紀の享受や歴史事件の思想に及ぼした影響、思考のありかたを伝えるテキストとなっている。

大きさ 縦 16.5 cm 横 15.5 cm

(冒頭)



(末尾)



同データベースで、キーワードに「慈鎮和尚夢想記」と入力して検索したとき、請求番号「S0114-17」として表示されるのがこの史料です。

全表示ボタンをおすと検索結果詳細画面が表示されますので、その画面のイメージボタンをおしてください。

- ✦ 史料原本をご覧になりたい場合は、事前申請が必要です（原本閲覧の必要があるかどうか、判断させていただきます）。

詳細は、HP内の、図書室閲覧案内（閲覧手続き）<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/tosho/etsuran.html> をご覧ください。